公益社団法人
日本語教育学会
Association for Japanese Language Education

2025 年度第1回支部集会【九州・沖縄支部】

主催:公益社団法人日本語教育学会

日　　時：2025 年 7 月 5 日（土）10:10－16：30　（受付開始：9：30 予定）

会　　場：立命館アジア太平洋大学・Ａ棟（大分県別府市十文字原 1-1）
https://www.apu.ac.jp/home/

＊キャンパスマップはこちら↓
https://www.apu.ac.jp/home/contents/campusmap/2024CampusMap_All_J.pdf?v=250210

参 加 費：1,000 円（マイページより事前参加登録時に支払い）
定　　員：100 名
対　　象：日本語教育に関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
申込締切：2025 年 7 月 1 日（火）23：59　（定員に達した場合は，締切日以前に締め切ります）
申込方法：日本語教育学会マイページ から事前参加登録をお願いいたします。

問 合 先：公益社団法人日本語教育学会　支部活動委員会
E-mail：shibu@nkg.or.jp　TEL：03-3262-4291（平日 10～18 時のみ）

◆支部集会日程◆

9：30（予定）	受付開始	【A 棟 2 階多目的スペース】 ※準備ができ次第，受付を始めます
10：20-12：00	口頭発表【1】(3 件)， ポスター発表【1】(3 件)	【A 棟 2 階コンベンションホール，多目的スペース】
13：00-14：40	口頭発表【2】(3 件)， ポスター発表【2】(2 件)	【A 棟 2 階コンベンションホール，多目的スペース】
14：50-16：20	交流ひろば(7 件)	【A 棟 2 階多目的スペース，コンベンションホール】
16：30	閉会	【A 棟 2 階コンベンションホール】

開会……【10:10／A 棟 2 階コンベンションホール】

口頭発表【1】……【10:20-12:00／A 棟 2 階コンベンションホール】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。詳細は予稿集原稿をご覧ください。

10:20-10:50 ①ミャンマー人介護人材の来日動機に関する考察
水戸貴久（立命館アジア太平洋大学）

10:55-11:25 ②「満州国」の日本語教科書
日下部龍太（清華大学・中国）

11:30-12:00 ③「機能に相応しい発話」に対する聴覚印象の相違
－中国人学習者と日本語母語話者の比較－
高村めぐみ（愛知大学）

ポスター発表【1】……【10:20-12:00／A 棟 2 階多目的スペース】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。詳細は予稿集原稿をご覧ください。

ポスター発表【1】 【A 棟 2 階多目的スペース】 10:20-12:00	① 相互作用的真正性を高めた再話教材の作成－意味交渉の促進を目指して－ 岩本穣志（関西学院大学） ② 日本語参照枠に基づく新たな Can-do シラバスの策定と中上級教材の開発 髙屋敷真人（関西外国語大学） ③ 留学生のサービス・ラーニングによる意識と行動の変容－こども食堂での学びに焦点をあてて－ 菅川裕希（比治山大学）

休　憩……【12:00-13:00】

※近隣に昼食をとる場所がないので，ご持参いただきますようお願いいたします。コンベンションホール，多目的スペースは飲食禁止のため，カフェテリア（E棟）の食事スペースでお召し上がりください。なお，カフェテリアは営業しておりません。

口頭発表【2】……【13:00-14:40／A 棟 2 階コンベンションホール】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。詳細は予稿集原稿をご覧ください。

13:00-13:30 ④外国籍等の人々の生きづらさ軽減に向けた施策の提言
－枚方市における事例研究－
大河内瞳（桃山学院大学）

13:35-14:05 ⑤日本語教育における多聴教材作成の開発
－中級の学習者を対象に－
成利楽（立命館アジア太平洋大学）

14:10-14:40 ⑥都市間の共通点が生み出す国際交流の可能性
－沖縄・ダナンにおける COIL 型教育の実践から－
天野裕子（沖縄大学）

ポスター発表【2】……【13:00-14:40／A 棟 2 階多目的スペース】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。詳細は予稿集原稿をご覧ください。

ポスター発表【2】 【A 棟 2 階多目的スペース】 13:00-14:40	④ 学生主体 YouTube 番組制作の取り組み－自律的学習支援を目指して－ 戸坂弥寿美（大分大学），大平幸（四国大学），深山道助（立命館アジア太平洋大学），渡辺若菜（立命館アジア太平洋大学） ⑤ 地域で学ぶ短期集中日本語プログラムにおける異文化間能力を育むしかけ 住田環（立命館アジア太平洋大学），渡辺若菜（立命館アジア太平洋大学），板井芳江（立命館アジア太平洋大学），深山道助（立命館アジア太平洋大学）

交流ひろば……【14:50-16:20／A 棟 2 階多目的スペース，コンベンションホール】

※「交流ひろば」は，日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。

「交流ひろば」への出展は，学会員・非会員に限らずどなたでも可能です。

交流ひろば **【A 棟 2 階 多目的スペース】** 14:50-16:20	① 日本の見えない文化「死生観」をテーマとした読解教材 植山葵（京都民際日本語学校），岩本穣志（関西学院大学） 「死生観」というテーマは学習者の関心が高く，文化の根幹をなす「見えない文化」でありながら，これまで日本語教育の現場では取り上げられる機会が多くありませんでした。私たちは，学習者の好奇心と異文化への理解を涵養することを目的に，「死生観」をテーマとした読解教材を作成しました。ご意見・ご感想をいただければ幸いです。 ② 平和な社会づくりをめざすための日本語教育の教材や学習方法 松永典子（九州大学） 私たちはマレーシアの大学の日本語学習者と日本の大学生との，歴史・言語・文化学習を統合した遠隔協働学習を行っています。日本語教育ではタブー視されてきた戦争の歴史に敢えて焦点を当て，文化接触から生じる葛藤やジレンマを乗り越えていく経験が平和な社会づくりの第一歩となると考えています。平和俳句交換など，平和のための日本語教育の教材や学習方法を共有し，さらなる協働学習の可能性を参加者のみなさまと考えたいです。興味のある方はぜひお越しください。 ③ 就労者のためのオンライン日本語教材－現場とつなぐ課題遂行型タスク－ 品田潤子（BPC 研修サービス） 全国で就労する外国人材のためのオンライン教材を開発しました。自学自習で取り組んでから周囲の日本人への働きかけを実践する課題遂行型のタスクです。この教材の試用事例について報告します。可能性や課題について関心のある方と意見交換をしたいと思います。ぜひお越しください。

交流ひろば **【A 棟 2 階 多目的スペース】** 14:50-16:20	④ 短期留学生を対象とするイベント型多文化共修の実践と課題 小林浩明（北九州市立大学），金賢秀（韓国仁川大学校） 短期留学生が全員履修する授業の中で，3 年前から多文化共修を実践しています。学内の大学生や連携している近隣の高校生とともに，地域のお寺を舞台としたイベントを開催したり，外部団体との共催でセミナーを開催したり，小学生と交流したりしています。毎回，試行錯誤の連続ですが，いろいろな現場で同じような実践に取り組んでいらっしゃる方と，多文化共修とその実践について一緒に考えられたら嬉しいです。参加している留学生も来ます。

交流ひろば **【A 棟 2 階 コンベンションホール】** 14:50-16:20	⑤ 学習者が自ら前向きに取り組むために教師はどのような働きかけができるのかーエンゲージメントの観点からー 岩下真澄（福岡女子大学），石澤徹（東京外国語大学），桜木ともみ(国際基督教大学），前田由樹（エリザベト音楽大学） 学習者が自ら前向きに課題に取り組むために，先生方はどのようなことをされていますか。本出展では，いくつかの事例を共有しながら，学習者に対する教師の働きかけについて参加者の皆さんと議論を深めたいと思います。興味のある方はぜひお越しください。 ⑥ 実践紹介「多文化・多言語の子どもたちの強みを軸にした社会包摂の実践」～多言語スピーチ会を通して育む多文化共生コミュニティ～ 立山愛（別府市立別府中央小学校），栃原玲子（立命館アジア太平洋大学），外園孝子（大分県中津市立今津小学校），栃原海（大分県立別府翔青高校学生），シルヴェステレッセ・マリア・アントニア（東明高校学生），グエン・タン・アンビン（岩田高校学生） 私たちは多文化に生きるこどもたちのよりよい育ちを応援するために活動しています。こどもたちが「自分のことば」で「自分のきもち」を表現する場「多言語スピーチ会」は今年 5 年目を迎えます。こどもたちの多様性を肯定的に捉え，社会的包摂を実現できるか，そのためのコミュニティをどう育んでいけるか，みなさんと交流・意見交換できたらと思います。

交流ひろば 【A 棟 2 階 コンベンションホール】 14:50-16:20	⑦ ６つの線でカタカナ・漢字学習を支援する試み－地域実践におけるアルファベット法と TPR 法の比較から－ 髙橋志野（愛媛大学），向井留実子（愛媛大学）， 伊藤江美（拓殖大学） 本出展では，非漢字圏学習者のカタカナ・漢字学習の負担を軽くする K-code を用いた実践を紹介します。K-code とは，カタカナや漢字の字形を構成する線を６種類に分類する方法で，学習者が字形認識をしやすく，読みやすい字が書けるようになるという特徴があります。文字指導に興味のある方，ぜひお越しください。

閉会……【16:30／A 棟 2 階コンベンションホール】

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表①〕

ミャンマー人介護人材の来日動機に関する考察

水戸貴久

本発表では，2021 年のクーデター以降留学生として来日し，介護福祉士養成施設を卒業後介護職に従事しているミャンマー人介護人材の来日動機を考察する。在留ミャンマー人増加の背景には，クーデターとそれに伴う物価の高騰や軍政への反対等に起因する出国への切望という一面もあるが，本研究では一元的な因果関係の議論からは窺えない当事者の来日動機や来日に至るプロセスを明らかにする。本研究ではクーデター後に来日した 7 名の介護人材にインタビューを行い，定性的コーディングによる分析を行った。分析の結果，コロナ禍に続きクーデターが発生したことで現地の大学を辞めざるを得なかったこと，そのため修学資金制度で家族に負担をかけずに学位が取得できる介護の留学を選択したこと，母国の家族へ仕送りが期待できたこと等の来日動機を明らかにした。発表では，来日プロセスの詳細を提示しながら個々人の語りを引用し，より多角的に考察する。

（水戸―立命館アジア太平洋大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表②〕

「満州国」の日本語教科書

日下部龍太

満州の日本語教科書は大きく四期に分類でき，第一期は 1906 年から 1922 年頃の南満州鉄道（鉄道沿線地）と関東庁（大連や旅順の租借地）がそれぞれ独自に教科書を作成し，さらには内地や台湾や朝鮮の教科書も満州で多数併存した時代である。第二期は 1922 年頃から 1932 年頃の南満州鉄道と関東庁が合同で南満州教育会を設置して教科書を統一させた時代である。第三期は 1932 年頃から 1937 年頃の「満州国」の文教部時代である。第四期は 1937 年頃から 1945 年の「満州国（満州帝国）」の民生部時代であり，日本語が「国語ノ一」と規定された時代である。本発表は第四期の研究であり，これまで実際の教科書を確認できないとの理由から分析をされてこなかった『国民学校 日語国民読本』（1938 年，満州帝国民生部）の巻一から巻八と『国民優級学校 日語国民読本』（1938 年，満州帝国民生部）の巻一と巻二を分析するものであり，加えて台湾総督府発行の国語教科書ともその内容比較を行うものである。

（日下部―中国・清華大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表③〕

「機能に相応しい発話」に対する聴覚印象の相違

―中国人学習者と日本語母語話者の比較―

高村めぐみ

本研究は，日本語の「依頼」「感謝」などの「機能に相応しい発話」について，中国人大学生と日本語母語話者の聴覚印象による評価の差を比較したものである。

日本人発話協力者 7 名による 17 種の発話を，中国人大学生 100 名と日本語母語話者 5 名が聴覚印象で評価（4 件法）した。中国人大学生の学年間の差はなかった（Welch の一元配置分散分析）ため，次にノンパラメトリック検定（Mann-Whitney U 検定）を用いて中国人大学生と日本語母語話者の差を機能ごとに分析した。その結果，多くの機能（17 機能中 13 機能）で有意差があったが，瞬間的な感情を表す機能（「驚き」），相手に負担がかかるため丁寧に伝える必要がある機能（「依頼」「協力要請 1」「協力要請 2」）では，日中間に有意差がなかった。また，日本語母語話者が発話者の演劇経験，プロ経験を高く評価する傾向があるのに対し，中国人大学生はそれ以外の要因（声の大きさや抑揚）も評価する可能性が示唆された。

（高村―愛知大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表④〕

外国籍等の人々の生きづらさ軽減に向けた施策の提言

―枚方市における事例研究―

大河内瞳

本研究では，外国籍等の人々の生きづらさの軽減に向けて行った提言と提言プロセスの特徴を明らかにするために分析を行った。本提言プロセスの 1 段階「イシューの認識・集約」では，多様な専門性を有するメンバーが呼びかけ人であること，市民円卓会議が開催されたことが大きな特徴と言える。2 段階の「課題（アジェンダ）の設定」と 3 段階の「政策生成・形成：問題解決のための案の作成」は，他地域の NPO 法人と教育委員会を訪問した上で行った。作成した提言は，枚方市，枚方市教育委員会，枚方市議会に提出した。提出した提言は，外国籍等の人々の生きづらさの軽減を目的としていること，妊娠や教育など広範囲をカバーしていること，人権を前提としていること，枚方市の実情に基づいていることの四点が特徴であった。日本語教育分野で実際に自治体に提言を行うところまでを扱った研究は管見の限りなく，本事例研究は今後の取り組みの一助となるであろう。

（大河内―桃山学院大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表⑤〕

日本語教育における多聴教材作成の開発

―中級の学習者を対象に―

成　利楽

多聴とは，学習者がやさしい目標言語の音声を楽しみながら大量に聴く活動であり，聴解力向上や語彙習得促進といった効果が報告されている。本研究では，中級レベルの学習者を対象に，多聴授業を実施した。調査には，A 大学で中級聴解授業を履修している中国人留学生 7 名が協力し，計 68 本の音声教材を使用した。学生は，タイトルで興味のある教材を選び，メモを取らずに聴き，理解度が 90%に達した場合は次の教材に進むという方針で学習した。授業後，ワークシートに理解度や聞き取り回数，内容の面白さを記入させた。音声教材のテキスト分析結果，リーダビリティ・スコアが高く，一文あたりの語数が少ない教材は，学習者にとって非常に聞きやすいと感じられ，文の構造の単純さが音声理解に貢献することが示唆された。したがって，多聴教材の選定や作成においては，複雑な文構造を避け，シンプルで理解しやすい語彙や文を使用することが，重要なポイントとして優先的に考慮されるべきである。

（成―立命館アジア太平洋大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）口頭発表⑥〕

都市間の共通点が生み出す国際交流の可能性

―沖縄・ダナンにおける COIL 型教育の実践から―

天野裕子

共通の観光資源を有する地域を対象に，日本（沖縄）とベトナム（ダナン）の大学生による COIL 型教育を実施し，日本人学生の学習成果を質的に分析した。沖縄県の学生 14 名とダナン市の学生 25 名が参加し，自身の都市の観光の現状を紹介し合った後，互いの都市への観光振興策を提案した。観光という具体的かつ身近な共通文脈は，交流の出発点として双方の関心を引き出し，対話と比較による深い学びを可能にした。交流後に収集したコメントを，質的データ分析手法 SCAT を用いて検討した結果，①制約への柔軟な対応，②言語的障壁の補完，③共通文脈による気づきの促進，④国際交流の意義認識の 4 点が抽出された。共通性の共有が文化的差異の発見と理解を促す契機となった点は特に注目すべき成果である。

（天野―沖縄大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）ポスター発表①〕

相互作用的真正性を高めた再話教材の作成

―意味交渉の促進を目指して―

岩本穣志

本研究では，日本語教育におけるタスクの真正性の要件を探求する一環として，大学の初中級レベル日本語クラスでの再話活動のために作成した教材について報告する。従来の再話活動では学習者間の意味交渉が十分に行われず，単調なリプロダクションに終わることも多かったため，2024年度より，意味交渉を促し，相互作用的真正性を高めることを目的とした再話教材を作成して使用した。この教材では，再話にインフォメーション・ギャップを導入し，読み物のレビュー，クイズや謎解き，話の続きの予想など学習者間の自然な意味交渉を促すクローズドなタスクを付加した。その結果，学習者による積極的な再話への取り組みが見られ，アンケート調査では，本教材を用いた再話活動に対して概ね肯定的な評価が得られた。

（岩本―関西学院大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）ポスター発表②〕

日本語参照枠に基づく新たな Can do シラバスの策定と中上級教材の開発

髙屋敷真人

関西外国語大学留学生別科の総合中上級日本語コース（日本語 5 から日本語 8）では，2021 年に文化庁文化審議会国語分科会によって取りまとめられた日本語教育の参照枠，更に，国際交流基金が 2010 年に策定した JF 日本語教育スタンダードと日本語能力試験の該当レベルを参考にして，2023 年度秋学期より言語能力記述文（Can do）を用いた統一シラバスを作成し試用を始めている。本発表は，今回の本学留学生別科日本語コースの中上級レベルにおけるにおける統一シラバス作成と教材開発の実践報告である。この新シラバス策定の目的は，日本語教育の参照枠に基づき，留学生を社会の一員として捉え，日本語を使用した課題遂行能力を養成し，彼らの異文化理解能力を育み共生社会の実現を目指すことである。更に，新シラバスに沿って，そのような能力を養成するための効果的な教材の開発を試み，ルーブリックを用いた新たな評価法の策定も行った。

（髙屋敷―関西外国語大学留学生別科）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）ポスター発表③〕

留学生のサービス・ラーニングによる意識と行動の変容

―こども食堂での学びに焦点をあてて―

菅川裕希

多文化が進む日本社会において，留学生が地域と関わりながら日本社会への理解を深め，他者と協働する力を育むことが重要である。本研究では，2023年度「日本事情」授業におけるサービス・ラーニング（以下，SL）の実践として，地域交流の場である「こども食堂」での活動を通じた留学生の学びとその後の変容を報告する。留学生 3 名の最終課題およびインタビュー調査を分析した結果，活動を通して「居場所」や「人とのつながり」「見えにくい貧困」などの社会課題を多面的に捉え直し，福祉的支援の意味を再構築していた。また，日本語使用への不安の軽減や，「人の役に立ちたい」という意欲の向上も見られた。さらに，活動経験は一過性のものに留まらず，時間をかけて内面化され，帰国後の行動や意識の変化にもつながっていた。こうした結果から，SL は留学生の社会文化的理解の深化や，ボランティア活動への継続的参加意欲に寄与する可能性が示唆された。

（菅川―比治山大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）ポスター発表④〕

学生主体 YouTube 番組制作の取り組み

―自律的学習支援を目指して―

戸坂弥寿美・大平幸・深山道助・渡辺若菜

従来，言語教育において動画などのメディアツールは，教室での学びを補助する教材として活用されてきた。しかし，近年自律的学習支援のためのツールとしても利用されるようになり，コロナ禍以降は交流活動の手段としてもその重要性を増している。

本発表では，大学で実施した学生主体の YouTube 番組制作活動について報告する。本活動は，教師主導型の学習とは異なり，学生が日本人学生・留学生を問わず参加し，協働して番組を制作することで，自律的学習を促すことを目的としている。

2022 年 5 月から 2025 年 4 月現在までに 19 名の学生が参加し，計 60 本の動画を制作した。活動の効果を検証するためアンケート及びインタビュー調査を実施した結果，言語能力，メディアリテラシー意識，映像知識，学内及び地域での交流，学内及び地域の情報取得において効果が見られた。このことから，学生主体の動画制作活動が，自律的学習を支援する有効な手段となることが示唆された。

（戸坂―大分大学，大平―四国大学，深山，渡辺―立命館アジア太平洋大学）

〔2025 年度第 1 回支部集会（九州・沖縄支部）ポスター発表⑤〕

地域で学ぶ短期集中日本語プログラムにおける異文化間能力を育むしかけ

住田環・渡辺若菜・板井芳江・深山道助

本発表では，「地域で学ぶ短期集中日本語プログラム」（以下プログラム）における異文化間能力養成のための効果的なしかけを検討する。プログラムは，CEFRA2 レベルの留学生を対象に春休み中の 2 週間（学習時間 60 時間），地域の公民館を教室にグループ活動を柱とした授業を行いながら実施したものである。このプログラムは日本語運用力だけでなく，異文化間能力も育むことを目標にしており，その目標達成のために①移住者の話を聞く，②湯治宿に宿泊し，女将さんへのインタビューと手伝いをする，③地域住民と交流する，④地域住民を聴衆にグループでポスター発表をする，の４つのしかけをプログラムに組み入れた。それぞれの活動後およびプログラム終了後のサーベイの記述内容からは，これら４つの活動に対する評価が高く，地域住民と直接的な関わりを持つ活動をプログラムに組み入れることで，留学生の異文化間能力を効果的に養えることが示唆された。

（住田，渡辺，板井，深山―立命館アジア太平洋大学）